

## 大分の親族と対面 涙ぐむ

フィリピン残留日本人2世

### 帰国会見 初めて



日本人の父を持つフィリピン残留日本人2世の男性が17日、来日し、都内で父親の故郷である大分県の親族と対面した。記者会見で男性は「日本は第二の故郷。自分の欠けたアイデンティティーの一部が日本だ

と思っている」と話した。男性はフィリピン・ダバオ市在住の利光カルロスさん(76)。カルロスさんの父親は1918年、長崎県からセブ島に渡り、フィリピン人女性と結婚してカルロスさんをもうけた。戦時中、

カルロスさんは疎開したが、両親らはダバオ市で消息不明に。いずれも戦争で亡くなったとされている。父親の情報や写真を手がかりにNPO法人や日本財団などが調査した結果、父親が大分県出身の利光和平さんと判明。カルロスさんは日本国籍を取得するため就籍の申し立て中だという。

親族と初対面を果たしたカルロスさんは「両親を早くに亡くして空虚な気持ちだったが、それが埋まった気がする」と涙ぐんだ。22日までの滞在中に大分県を訪問し、父親の50回忌法要などに出席した。

(多田晃子)